

2006年8月17日

内閣府食品安全委員会事務局評価課内

「薬剤耐性菌の食品健康影響評価」意見募集担当 様

家畜等に給与するモネンシンナトリウムによる薬剤耐性菌に関する  
食品健康影響評価についての意見

日本生活協同組合連合会 安全政策推進室

室長 鬼武 一夫

〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3丁目29番8号 コーププラザ

電話：03-5778-8109

○使用量、使用期間に関する情報について

貴委員会の「家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針」によると、評価に用いる資料として、動物用抗菌性物質の対象動物別の流通量(全体、家畜等別)、また販売開始時期に関する情報を収集するとしています。

モネンシンについては、1970年代から世界各国で家禽、牛に対して広範に使用されてきたとの記述はありますが、流通量や動物ごとの使用実態が明らかではありません。家畜から分離された *Enterococcus* 属、*Clostridium* 属菌に対する感受性の調査結果から、これらの菌が耐性を有する可能性は低いと思われませんが、流通量と耐性率の経時変化は重要な情報です。これらに関する情報を収集もしくは製造販売者へ請求し、評価書に記載してください。

○対象とする家畜等の病原体に対する効果について

評価書には、北ドイツの *Eimeria* 野外分離株 10 株のうち 6 株が、また中国広東省南海地域で分離された *Eimeria* 原虫のオーシスト(胞嚢体)がモネンシン耐性であったと記載されています。これらからは、データは少ないものの、コクシジウムのモネンシン耐性は相当程度広がっているように思われます。畜産生産者、消費者にとって、効果の低い薬剤を使用しつづけることの利点はありません。適切な薬剤使用のために、国内におけるコクシジウムの耐性データの収集を検討して下さい。

○最新の菌種名を記載してください

種々の細菌についてモネンシンの感受性が示されていますが、*Diprococcus* や *Salmonella typhosa* など、現在は用いられていない菌種名で記載されているものが見られます。これらについては、最新の分類法による表記が望ましいと考えます。引用資料などの理由で修正できない場合は、注釈等で最新の分類による菌種名を記載し、より有用な情報提供に努めてください。